

くるくるトラロープを導入

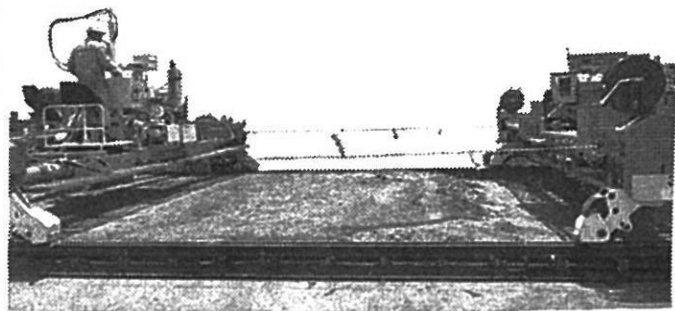
機械回りの接触到に注意喚起

大成ロテック

大成ロテックは、コンクリート舗装工事での安全対策として注意喚起器具「くるくるトラロープ」Ⅱ写真Ⅱを導入した。コンクリート舗装のセツトフォーム工法では、敷き均し・締固め・表面仕上げの3種類の機械を使用しての施工が一般的で、各々の機械は設置された軌道（レール）の上を走行して施工する。

そのうち、締固め・表面仕上げの機械は常に前進しながらの施工であるのに対し、敷き均し機械は施工場所に搬入された生コンクリートを機械自体が軌道上で前後進を繰り返して施工を行うため、機械回りの作業員との接触が懸念される。そこで同社は、最も危険が想定される、敷き均し機械と締固め機械との

間に作業員が入らないようにトラロープで注意喚起を促す対策を考案した。トラロープは、特殊ドラムにより何時でも引っ張られた状態で、敷き均し機械の前後進に追従し機械同士の距離が変わってもゆるむことなく注意喚起を継続する。また、トラロープと敷き均し機械の連結部には、トラロープより低強



度である連結チェーン（プラスチック製）を使用し、トラブル時の破断箇所を設けた。これにより何らかのトラブルにより破断した場合でも、補

助ロープ（ゴム製）でトラロープを補助し、同時にフザードオペレータに異常を知らせるダブルセーフティ機能も追加した。

同社は、このシステムを「くるくるトラロープ」と名付け、同社機械技術センターで作動テストを繰り返して、今回、群馬県内のトンネル舗装工事に導入した。現場での評判は良好で、今後はこの器具を改良し、コンクリート舗装現場へ普及を進め、安全性の向上を図っていく。